

「タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール参加報告書」

京都大学文学部1年 大橋明日香

タイ研修で一番感じたのは話を聞けることがいかに価値のあることであるかということである。研修中の2週間は、学生からタイのことやチュラーロンコーン大学のことを教えてもらったり、先生のガイド付きで有名だったり文化的価値があったりする場所を見て回ったりした。以前旅行でタイに行ったことはあったが、ただ観光地を見て回るのと実際にタイ人(学生も先生も)の話を聞いたり彼らにいろいろなことを教えてもらったりしながら生活するのとでは学べるのが全然違った。情報量が違うのは当然だが、質もとても高かったのだと思う。百聞は一見に如かずと言うように、もちろん目で見ることも大切ではある。しかし(噂話やネットの情報ではなく)地元の人の声を聞けることも見ることと同じかそれ以上に重要なことだと感じた。

大学ではタイ語の勉強もしたが、授業に参加したり実際に寺院などに行ったりしてタイの文化や歴史も学んだ。また、タイ人学生と一緒に「日本とタイの祭りの比較」というテーマのプレゼン発表もグループワークで行った。考えたこともない話なので日本人にとっても決して簡単でないテーマだったのに、それを日本人もタイ人も日本語で発表する必要があったから、チュラの学生にとっては非常にハードだったのではないと思う。それでもみんなとてもしっかりした発表をしていたのが印象的だった。発表準備のときに協力できることはしたと思っているが、ハードな発表準備の中でも私たちに気を使ってくれていた彼らに対して、ありがたいような申し訳ないような自分の無能さを痛感するような、そんな気持ちになった。

チュラの日本語を専攻している学生たちは本当に日本語が上手で、日々一生懸命勉強しているであろうことが感じられた。日本語そのものだけでなく、日本のカルチャーや日本語の周辺知識にも詳しくて、日本人の自分ですらまいち分からないことまで知っているとき分かったときには心底驚いた。自分も彼らのようにしっかり勉強しないとイケないと気づかされた。また、チュラの学生はみんな本当に優しくて仲良くしてくれて、とても嬉しかったと同時にありがたかった。人との交流において優しさや思いやりが大事なことは世界共通のことなのだと改めて感じた。彼らの中にはすでに京大に来たことがある人も何人もいたが、彼らや彼らの後輩が次に京大に来たときには、私も彼らと同じくらい、いや彼ら以上のおもてなしをしたいと強く思った。

研修中には無知を自覚して恥ずかしいような気持ちになったこともあった。「タイでは〇〇だよ、日本は？」と聞かれて「えっわからない…」と言うしかなかったことが1回ではなく2~3回あったのだ。相手側のことを知るのも重要だけど、自分側のことを知っていてそれを教えることができるということも同じくらい重要だと気づかされた。国際交流の機会は今後もあるはずだから、そのときまでにはもっと日本のことを知っておこうと思った。

私が感じたタイ人の特徴は、彼らは良い意味で適当だということである。ちょっとした失敗をしても「大丈夫！」と言われ、約束の時間に遅れて「ごめんなさい！」と謝っても「大丈夫！」と言われ、私たちのタイ語が下手でも先生が「大丈夫！」と言う。タイ人は「大丈夫！」という意味の言葉を本当によく使う。ときには「絶対大丈夫じゃないって」と思うこともあったが、日本人が細かいことを気にしすぎない部分もあるんじゃないかと思われた。ほどほどに適当に、そしてポジティブに生きたいと思えるようになった。

バンコクの街で過ごして思ったのは、バンコクの都心部、特にその中心エリアのサイアムはものすごく栄えているということである。巨大なデパートが何軒も立ち並び、2週間では位置関係が覚えきれず何度か迷子になりかけた。デパートの中では日本より物価が安いはずなのに全く手が出そうにないものも見受けられた。よく行くわけではないのははっきりとは言えないが、もしかしたら東京よりも栄えているのではないかと思うほどである。その一方でチャイナタウンの裏道やバンコクの郊外などではスラムのような場所や貧しい人々を見かけることもあった。同じ街でもここまで違いがあるのかとショックを受けた。表と裏、光と影、言い方は色々あるかもしれないが、どちらか一方だけがバンコクなのではなく、2つの面を持ち合わせてこそそのバンコクなのだろう。日本でも格差社会をどうにかしようと言われてはいるけれど、日本に限らず世界各地に格差社会問題はあるのだと感じた。

この研修での2週間は、日本で過ごす2週間とは比べ物にならないほど密度の濃い2週間だった。本当に多くのことを学ぶことができた。この研修のこと、この研修で出会った人々、この研修で学んだことは忘れられないものになるだろう。研修で出会った皆さんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。